

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672900293		
法人名	社会福祉法人 秀孝会		
事業所名	グループホーム京都ひまわり園 1階さくら		
所在地	京都府八幡市八幡清水井20番地		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	令和5年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JieyosyoCd=2672900293-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所目標である「第二の我が家、第二の家族」を目指し日々のケアに取り組んでいます。施設で最期まで過ごしたいと希望される方も多く、入居者の重度化が進んでいますが、入居者一人ひとりが楽しみや役割を持ち続け暮らしていけるように支援しています。今年度もコロナ禍の為、外出制限が継続していましたが、生け花の会を開催したり、ドライブに出かけ季節や外の空気を感じてもらえるように努めました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所目標「第二の我が家・第二の家族」と掲げ、入居者の重度化が進む中ですが、入居者の言葉を聞きながら家庭的な支援を目指されています。例えば、入浴時間を9時から20時迄と設定し、入居者の希望に合わせた入浴で、週6～7回の人や夕食後に入られる方もあります。二人介助で浴槽に浸かれる入居者も半数近いですが、「湯船に浸かり気持ち良くなってもらう」実践をされています。食事は業者から届きますが、職員からの発案で週1回「ルーを使った昼食づくり」と「ホットケーキを焼く手作りおやつ」で、入居者と一緒に切ったり、炒めたり、ルーを入れる、粉を混ぜたり、焼いたり、トッピング、などと幾通りにも変化が出来るので、入居者と一緒に楽しい時間にされています。また、看取りケアはリクライニングの車いすでリビングで過ごす方、居室で過ごす方、それぞれに職員が頻繁に声をかけ、終末期にはお好きなビールで唇をしめらせた方もあり、家族に喜ばれています。昨年度、今年度共に3人ずつ看取り、最後の時までその方らしい生活の質を優先することを大切に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「照千一隅」と事業所目標「第二の我が家・第二の家族」を掲げている。事業所目標は年度毎に職員会議で話し合い、決めている。	法人理念として「照千一隅(しょうせんいちぐう)」が定められている。事業所の理念として「第二の我が家、第二の家族を目指す」と定められていて、玄関、事務室等にわかりやすく掲示されている。事業所の開設時に職員の話し合いにより策定している。家族、地域住民に周知している。スタッフ室に掲示されている。理念の実践として職員は利用者に対し、理念を念頭に穏やかに家族のような声掛けを行い、利用者本位につながるケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も地域行事についてはほとんど中止、縮小となっており、コロナウィルス感染拡大防止の観点からも地域との日常的な交流を図ることが難しい状況にある。	事業所は表通りに面している。ホーム前の空地からは、車の往来、行きかう方々が見え、日々の社会の動きが見て取れる。事業所は八幡市の地域の自治会に加入しており、地域の回覧版も回ってくる。昨年に続き、コロナ禍のため、ホームと近隣住民とのふれあいがなく、法人全体でも近くの幼稚園、小中学校等と交流も中断している。新型コロナ 5月8日「5類」移行後に、地域の社会資源の活用が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間を通して認知症相談窓口を設置している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	八幡市役所高齢介護課、地域包括職員、利用者家族の構成員で偶数月の開催としている。今年度もコロナ禍の為レジメを配布し意見を聴取する書面開催で形式を取っている。会議録は高齢介護課、地域包括には配布、家族には来園時に閲覧、又は持ち帰ってもらえるよう玄関に置いている。	コロナ禍のために、書面開催となっている。八幡市の介護保険担当者、老健梨の里代表(地域包括担当者を兼ねる)、家族代表が委員となり、偶数月に開催している。対面開催ではないので、レジメを事前配布して意見を募る方式で進めている。その議事録はメンバーには送付し、行政の担当課には持って行き、玄関先に複数コピーが用意され、希望者は自由に持ち帰れるようにしている。	運営推進会議の家族委員はユニットごとに一人参加をされているが、他の家族の方にも運営推進会議の議事録を送付され、会議の内容や課題を共有されては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の状況報告を行っている。今年度も集団指導は書面での開催であった。必要時には適宜連絡や訪問を行い相談、助言を頂くようにしている。	八幡市の介護保険担当者とは、運営懇談会及び介護保険申請手続きなどで、連携を取っている。事業所の職員に認知症介護指導者研修修了者がおり、指導者として事業所でのケア及び地域との連携に繋がるように法人として構想している。	認知症介護指導者として、八幡市及び周辺地域の認知症ケアの質の向上のために、「地域住民や福祉専門職を対象とした研修会の講師」「行政の委員会や会議等への参加」「当事者や地域住民向けの相談・啓発活動」等について、尽力されることを望みたい。

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催。法人勉強会や事業所内会議で身体拘束について学ぶ機会を持っている。玄関施錠は安全上の観点から行っているが、入居者が外に出たい時等には解錠している。	法人本部の身体拘束廃止委員会に各事業所の代表が参加し、その結果を事業所の職員に伝達している。また、法人勉強会や事業所内会議で身体拘束廃止について学んでいる。年1回身体拘束のチェックリストを実施し、収集・集計して事業所で討議している。家族とは、歩いて転ぶことを理解してもらうようにリスクについて話し合っている。同法人のケアハウスから入って来られた方は、ケアハウスが自宅だと思い、行きたがられるので、一緒に行って、お茶をよばれて帰って来ておられる等、利用者の気持ちに寄り添ったケアをされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会、事業所内勉強会で学ぶ機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会、事業所内勉強会で学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約説明、退居時の解約説明を行っている。疑問点等に対しては理解してもらいやすいように説明対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、電話等で意見を伺う機会を設けている。	この1年間、コロナ禍の中でも、事業所内で面会できるように努めてきた。その時間制限はあるものの、家族等は利用者と居室で面会ができる。その他、事業所に来られない方々には、LINEでの面会にも対応している。職員はその際、家族等からの意見、要望を聞き取って事業所の運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議で単年度事業計画の進捗把握を行い、適切な事業運営に努めている。	管理者が参加する様々な会議で、通りを挟んで隣接する法人本部と事業所間の情報交換等をしている。管理者は日常ケアの中で、職員から事業所についての意見、要望、希望する研修等を聴取している。法人の自主勉強会年間計画が作成されており、法人本部での委員会には事業所の職員も参加できる。さらに動画サイトYouTubeに法人職員限定の研修動画サイトがあり、事業所の職員はいつでも、どこでも学習できる。職員会議は全職員参加を原則とし、毎月実施、法人の情報伝達、事業計画や運営の点検、行事の相談、ケースカンファレンスを行い、伝達研修も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	定期的に開催している安全衛生委員会で確認に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や法人内勉強会では動画配信を行い学びやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修等の研修に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では本人、家族、それまでに関わりのある事業所から情報収集を行い、環境変化への対応も含めて安心して過ごせる様、話しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望等をサービス導入時に確認し導入以降も定期的に新たな不安や要望等がないか確認を行っている。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にはこれまでの生活や本人、家族の意向、事業所からの情報をもとにケアプランを作成し、入所後の生活を通して短期間で見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯等、利用者が出来る事は自分でしてもらえるように働きかけ、主体的に動ける環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「お任せします」の介護にならない様、家族の気持ちや本人との関係性に配慮した上で、一緒に支えていくことが出来るように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	LINEテレビ電話面会や予約制の面会、手紙のやり取りを行っている。	コロナ禍のために、事業所職員及び利用者と同隣の方々との交流は、敷地の内側からのみとなっている。地域の方々からの野菜の差し入れもない。また家族以外で利用者と旧知の関係継続も容易ではない。法人の車で、レクリエーションを兼ねたドライブに行くことがあり、その際に思い出の場所を車窓から眺めて楽しんでいる。	近隣に野菜直売所があるので、そこまで職員と利用者が一緒に出向き、地域の方々との交流をさせてはいかかでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性やその日の体調、気持ちに合わせて利用者同士が主体的に関わり合える様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に家族からご本人の状態連絡があったり、コロナ禍が落ち着いたらホームでの活動に協力したいとの声を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートの活用や職員会議でのケースカンファレンス、サービス担当者会議を通して各職員が得た様々な情報を職員間で共有、分析しケアに返すことが出来るようにしている。	居宅支援事業所、医療機関等からの紹介、並びに事業所から入居を希望する本人及び家族等に直接出向いて、事業所の紹介をするなかで本人の意向、家族の思いなどを汲み取って、その集めた情報を基に、職員間で検討し、利用開始に備えている。	

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの話を元に家族に詳細を確認したり、家族面会時や電話連絡の際に馴染みの暮らし、生活スタイルについての情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の表情や仕草、言葉などの細かい情報については個別のケース記録に記入し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、主治医から意見を聴取し、スタッフの意見も反映し計画原案作成に努めている。	事業所での会議や各種記録、診療情報提供書と本人・家族の意向などを総合的に勘案し、初回の介護計画を策定し、利用開始後、状況に応じて見直し、本プランを策定している。6か月に1度ケアプランを更新し、また必要に応じてケアプランの見直しをして家族等に説明し同意を得ている。モニタリングをし情報共有している。アセスメントの緻密さにより本人本位の丁寧な介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の職員会議では個々の状態把握、支援内容の変更等がないか確認を行ない、情報共有している。毎月モニタリングを行い、計画見直しや作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、訪問マッサージ、訪問歯科診療の受け入れを行っている。以前利用していたヘルパーさんにご主人との手紙の受け渡しを行ってもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出制限もあり、コロナ前と同様の地域資源活用は行っていない。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族が希望する医療を受けることが出来るように、意向に合わせてご本人、ご家族と医療機関を繋げる支援を行っている。</p>	<p>契約時に利用者・家族に、今迄かかっていた医療機関に継続受診ができることを話し、本人や家族が、希望する医療を受けてもらっている。入居時は半数近くが今迄の主治医に行かれるが、高齢で通院が大変になってくると、連携医の月2回の訪問診療を受けられるようになってきている。現在は家族と通院されている方は1人で、家族同行で行かれる時は利用者の情報を渡している。受診されていない方も一人おられる。訪問歯科診療は3か月に1回口腔ケアも希望者が受けている。訪問看護師とは週2回、24時間オンコールで契約をし、緊急時は訪問看護師に連絡をして医師の指示をもらっている。また、連携医も24時間連絡が取れてきてもらえる。など、安心できる医療体制である。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回月曜と木曜に訪問看護ステーションから訪問看護師が来所しており、入居者の状態報告を行っている。必要時には24時間オンコール体制で訪問看護ステーションの看護師への相談や報告を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には施設から情報提供を行い、退院時には退院前カンファレンスや看護サマリー等で情報収集しスムーズな退院に繋げている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に看取りケアについての説明や意向確認を行っている。定期カンファレンスの際には終末期の意向について変化がないか確認を行い、終末期には意向の変化があった場合にはいつでも申し出てもらう様に伝えている。</p>	<p>入居時に「看取りの指針」で利用者・家族に説明をして、サインをもらい、サービス担当者会議で意向確認をしている。利用者が、ご飯を食べられなくなったら、医師と相談をして、家族、職員、に説明をしてもらい、家族の判断で事業所での看取りを希望されると、看取り計画を立てて計画に沿ったケアをしている。看取り期は医師が、毎日来て下さっている。職員への研修はリーダーがおこない、利用者はリクライニングの車いすで、リビングで過ごしたり、職員が居室に頻繁におとずれ、声をかけ様子を見ている。好きなビールで唇をしめらした方もある。また、看取り期は家族の面会や泊りも自由で、家族全員に看取られて、旅立たれた方もある。職員は職員会議で、振り返りをしている。昨年度3人今年度3人と看取り、ご利用者の最後の時まで、その方らしい生活の質を優先することを大切に取り組まれている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、事故発生時のマニュアルを整備している。緊急時対応表を作成しており、救急搬送希望の有無を明確にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を隣接する法人施設と協力体制、警備会社と連携体制を計りながら年に2回行っている。そのうち1回は消防署立会いのもと訓練を行っている。	年2回の昼夜想定避難訓練は法人や警備会社との連携のもとおこない、車いすの利用者も全員職員が誘導して避難をしている。車いすの利用者の居室には車いすマークを貼り、有事の際に誰にでも分かるように備えている。法人で地震と水害の机上訓練をおこない、管理者が職員会議で伝達をしている。特別養護老人ホームの施設は福祉避難所になっている。備蓄はリストを作成して3日分蓄えて有事に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについてYouTube動画を見て学び視聴前後のケア対応について考える機会を持ったり、会議の中でも声掛けについて場面例を挙げて対応について検討し情報共有、対応を統一へと繋げている。	法人独自のユーチューブチャンネルの勉強会で、「職業倫理とマナーについて」の動画を全職員が見て、日常のケア対応について考える機会を持っている。日常生活の中で、利用者への排泄の有無への問いかけの仕方や声の大きさに配慮をしている。利用者の呼び方や、トイレ、入浴時の介助の仕方にも気を付けている。職員の言動で、気になった時は、お互いに注意し合うのが基本だが、場合によっては、管理者や主任に挙げて、個人的に注意をしたり、会議の議題として話し合うこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化が進み、思いや希望の表出や自己決定が難しくなっていく中でも、表情やまばたき、これまでの生活スタイル等、言葉以外での表出をきちんと受け止められるように職員間で情報共有を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズム、生活スタイルを心地よく継続できるように、当日の体調に合わせた支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をする、好きな色の服を着る等、好きなことを続けていくことが出来るように働きかけている。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回昼食作りとおやつ作りを行っている。盛り付けや配膳等、個々が出来る事を行ってもらい役割を持ちながら食べる楽しみが充実できる様に支援している。	食事は給食業者が立てた献立で、調理をした料理が運ばれてくる。ご飯は各ユニットで炊き、利用者は盛り付けや、配膳、テーブルふきなどをおこなっている。職員会議で話し合い、週1回「ルーを使った昼食づくり」で利用者と職員が楽しく作れるようにしている。また、研修で手作りおやつの実践をおこなった職員の希望で、週1回手作りおやつの日を決めて、ホットケーキを焼くのが基本で、トッピングなどいろいろと楽しめる工夫をしている。昼食づくりやおやつ作りは利用者も一緒に切ったり、味見やルーを入れる、粉を混ぜたり、焼いたりトッピングをするなどで、利用者にも楽しい時間になっている。暦の上での行事食は給食業者に頼んでいる。誕生日は好きなものを職員と利用者で決めて作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量を記録し介護職や医療職で情報共有を行い状況に応じて補食対応などを行っている。個々の好みの飲み物等を取り入れ、水分量の確保にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや一部～全介助で口腔ケアを行っている。定期的に歯科衛生医師から口腔ケアを受けている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄について時系列で記録し、適切な援助が出来るようにしている。時間帯によって布パンツに履き替えたり、オムツやパットの種類を使い分け、ご本人の負担とならない範囲でトイレでの排泄を目指し支援している。	トイレでの排泄を目指して、排泄のチェック表を付けて、個々のパターンに合わせて、誘導している。病院や家庭から入居された利用者も、グループホームの生活に慣れて来られると、リハビリパンツやおむつで過ごされていた方が、時間帯によっては布パンツや失禁パンツに履き替えられた方もある。ポータブルトイレはトイレから遠い部屋の方や、夜間にトイレに行けない方が使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物を提供したり、白米にオートミールを入れて炊き込み食物繊維の接種が出来るようにしている。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の気分やタイミングで入浴してもらえるように朝から夕方まで入浴提供の時間を確保している。入浴剤を使用したり、歌を楽しみながら湯に浸かったり心地よい入浴時間となる様努めている。	9時から20時まで入浴提供ができるようにして、1日4～5人の方が入っている。週2回は必ず入り、希望する日の入浴が可能である。週6回から7回入られる方や夕食後に入られている方もある。入浴は利用者が緊張されるので、緊張緩和するように歌を歌って湯船に浸かってもらっている。お湯の入れ替えは一人ずつおこない、季節湯は昔懐かしい柚子湯を楽しんでもらっている。入浴拒否の方はタイミングや対応する職員が変わり入られている。浴槽に二人介助で入れる方が半数位おられるが、浴槽に浸かると気持ちが良いので、湯船につき、気持ちよくなってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温調整や不安などへの心理面への支援を行い、安眠に繋がる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の増減薬があった時には職員への周知と、薬変更後の変化について医療職への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に家事関連活動に重点を置き、個々がこれまでの生活の中で役割として持ってきたことや趣味活動などをできる限り継続していくことができるように、また、施設での新たな楽しみや役割が持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は医療機関への通院時のみとなっており、日常的な外出支援を行う事は難しい状況である。	コロナ禍のため外出は通院時のみで、それ以外の外出はまだできていないので、玄関前の庭のスペースで、外気浴や屋外でするバーベキューを楽しんだり、おやつを外で食べている。ドライブで花見や紅葉を見に行き、車の外には出られないが窓越しに楽しめるなど気分転換もおこなえた。洗濯物干しは前庭で、利用者と一緒にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している入居者はいない。日常的に買い物などにも行けないため、支払い等の支援も行っていない。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある時には対応している。携帯電話を持っている方もいる。自分で操作できない方に対しては必要部分を手伝っている。手紙や年賀状を家族に送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は常時窓を開け、夜間は換気扇で換気している。共用の空間は毎日、入居者と職員で掃除している。館内は入居者が作った装飾を飾ったり、スマートスピーカーやYouTubeを流して音楽や動画を視聴している。	南向きの大きな窓のリビングは陽の光りで明るい。リビングの大きいテーブル3台と小さなテーブル1台にそれぞれ好きなのところに座られているが、食事の時は場所を決めて、介助をしやすくしている。2人掛けのソファは利用者が寛ぐ時に活用されている。月1回利用者とした活け花をリビングに、利用者で作った作品を掲示板や廊下に飾り季節感を楽しんでいる。リビングの手作りの日めくりで、今日は何日と認識を促し見当識の予防をしている。湿温計を見ながら、空調で温度の調節をしたり、バスタオルを干して、湿度の調節をし、日中は窓を開けて、夜間は換気扇を回して換気にも気を付けている。毎日利用者と職員で掃除機やモップで掃除をして、気持ちよく過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の体調や気持ちに合わせて心地よく過ごせる様に場所や過ごす相手、過ごし方を考えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前まで使用していた使い慣れたもの等を入所後にも使い続けてもらえるように居室環境作りをしてもらっている。	カーテン、クローゼット、洗面台、エアコンは備え付けられている。そのほか入居の時に、馴染みの布団やベッド、タンス、テレビ、テーブル、椅子、仏壇、ハンガーラック、小物入れやタベストリーをぶら下げたり、飾り物や化粧品を持ってこられ、その方らしいお部屋作りをしている方もおられる。畳で布団を敷いて寝起きされている方や床にクッション材を敷いて転倒時に衝撃が和らぐようにされている。表札をかけて部屋を分かりやすくし、清掃は1日置きに職員と利用者として居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ案内表や表札を設置しわかりやすい環境作りに努めている。		